

入試の季節も終盤を迎え、受験生とご家族のみなさまの緊張感は並大抵ではありません。それぞれの「サクラ咲く」を心から祈っております。

現在会員登録数 3,525 人さま。次号は 3 月 23 日発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● あと5日！ オンライン視聴申込受付中！

期間中何度でもご覧いただけます。

<講演会「しかけ絵本に驚く、楽しむーイギリスの歴史からはじめてー」>

申込受付は2月25日（木）まで 視聴期間は2月26日（金）正午まで

講師：三宅興子さん 視聴料：1,500円

◆ お申し込みは、こちらから→ <https://shikakeehon.peatix.com>

詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 2020 絵本セミナー スズキコージさんたちと語る昔話絵本の魅力

『ジョージアのむかしばなし チンチラカと大男』を中心に

講師：スズキコージさん、片山ふえさん、鈴木加奈子さん

日時：3月14日（日） 13：00～16：00 参加費：1,500円

場所：大阪府立中央図書館 2階 多目的室（東大阪市荒本）

主催：絵本学会、大阪国際児童文学振興財団

詳細は↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第36回 日産 童話と絵本のグランプリ」（令和元年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。

日時：開催中～3月7日（日）\*ただし、国際児童文学館の開館日時

場所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

3月上旬に予定している第37回（令和2年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。（～3月28日（日）まで）

詳細は↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html#36tenji](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36tenji)

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のためにー 記念寄付のお願い  
皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。  
年間 1 万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イクロちゃん」のグッズをプレゼント！  
詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」  
<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>  
公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【 2 】 コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『ネムノキをきらないで』 岩瀬成子/作 植田真/絵 文研出版 2020年12月  
対象年齢：小学校中学年以上

あらすじ：小学4年生の伸夫（ぼく）は、おじいちゃんの家のある庭にあるネムノキが切られると聞いて「ぜったいに、きっちゃだめ」と反対する。そのころから自分のことばがうまく紡げないもどかしさを感じるようになる。そんな時、両親の離婚のために町内で引っ越して時々一緒に登校するようになった芳木くんから、動物の幽霊が出るという元動物病院の敷地に一緒に行ってほしいと頼まれる。

T：読めば読むほど味わいの深い作品でした。

おじいちゃん、お父さん、伯父さんの3人で、勝手におじいちゃんの家にあるネムノキを切ってしまうということを決めて、伸夫は疎外感を抱きます。

Y：疎外感というより、おじいちゃんが木のことを伸夫に「いい木だろ」と何度も言っていて、伸夫は「大きくなったら、ぼく、この家に住みたい」(p.100)と思っているため、伸夫の中では、ネムノキは自分の一部のように感じていたんだと思います。だから、大人たちが勝手にネムノキを切ると決めることが理不尽であると思う以上に、ネムノキが切られることに抵抗を感じたように読み取りました。

T：このことがきっかけのようになって、伸夫は、人前でうまくことばが話せなくなり、学校の先生やおとうさんを戸惑わせます。

Y：ちょうどこの時期に、自分中心に世の中を見ていた根拠のない自信が、社会を意識することで、ゆらぐように思います。そのことがうまくことばを紡げない状況として描かれていると思いました。

T：両親は、伸夫を見守ってはいますが、十分に理解できない。伸夫の気持ちを理解してくれるのが芳木くんです。

Y：伸夫は、ネムノキのことを知った日に、八つ当たりのように部屋のドアをしめてクモを殺してしまい、お墓に埋めます。芳木くんは伸夫の家に来たときにちゃんとお墓におまいりしてくれます。

T：芳木くんの両親は離婚をし、芳木くんは、母さんとおばあさんのところへ

一人で会いにいきます。歓待してくれる二人から芳木くんが読み取ったのは「母さんはもう、ぼくのところには帰ってこないんだな」(p.109)ということでした。ことばや行動の背景を読む芳木くんだからこそ、伸夫のことを理解できたのかなと思いました。

Y：その二人は、元動物病院の庭に出る犬や猫の幽霊のナゾを解きに行きます。ここは種明かしをどきどきして読みました。

T：幽霊が出ると言ったのは、庭の隣の家のおじいさん。伸夫たちは子どもを脅すおじいさんに反発しながらも、おじいさんの立場も理解するということに成長を感じます。とはいえ、この作品は決して子ども時代に別れを告げる作品ではありません。

Y：そうなんです。伸夫が「ネムノキをきらないで」と思う気持ちを大切に持ちつつげながら、枝を落とされておじいちゃんの庭に立ち続けるネムノキを愛おしいと思うという結末が、伸夫の変化を感じさせてくれると思いました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第66回「クンねずみ」

近代教育がもたらしたもの

今回は、〈ねずみ〉三部作の一つ、「クンねずみ」を取り上げます。

〈クンねずみ〉という名前のねずみがありました。自分が一番立派でえらいと思っており、自分よりも賢い人や立派なねずみに会うと、嫉んでくエヘンエヘンと咳払いをして当てつけたり、意地悪をしたりするのです。ですから、まわりのねずみからも嫌われていました。

ある日、クンねずみが散歩をしていると、別のねずみと話している鼠会議員の〈テねずみ〉を見かけます。テは、〈ケイザイやゴラクが悪くなるということ、不平を生じてブンレッツを起すというケッカにホウチャクするね。そうなるのは実にそのわれわれのシンガイで、フホンイであるから…〉と、こ難しい言葉を並べたてて話し、それを聞いていたクンねずみは癪にさわってくエヘン、エヘンとやっつけてしまいます。

そのことにより、テに〈ブンレッツ者〉扱いされ、縛られたクンねずみは暗殺されることとなりますが、突然あらわれた猫大将に助けられます。そして、立派な猫の家で4疋の子の家庭教師となるのですが、今度は子猫の賢さを妬んでしまい、最後は子猫たちに食べられてしまいます。

〈ねずみ三作のうち、表現の巧みさも、皮肉の強さもこの作品が一番かもしれない〉と述べるのは中野新治です（『国文学 解釈と教材の研究』2003年）。その一方で、〈ツェねずみ〉の結末が本作の〈ねずみ競争新聞〉に取り上げられ、クンねずみがそれを読む場面に象徴されるように、別個の作品が重層的に絡み合う展開のおもしろさやユニークさが、本作の特徴ともいえます。これは賢治童話全体の特質でもあります。

ところで、頻出するカタカナ表記の熟語は、教養や知識など教育を暗示するものであり、クンねずみにはそれに対する憧憬があることは間違いありません。

ん。難しい言葉を知っているということが社会的地位に直結し、教育という営みを通して競争を煽る風潮への諷刺が根底にあるといえます。同時に、クンねずみとはいわば競争に敗れた者であり、子猫に食べられてしまうことで哀れな結末をたどっていく姿からは、近代教育からこぼれ落ちていった大衆を想起させます。

作者はクンねずみを同情的には描写していませんが、近代教育が持ち込んだ競争原理が作品の一つのモチーフであることは動かしがたいことであるように思います。(ペ吉)

※「クンねずみ」における「ン」の表記は本来小さい「ン」ですが、PCでは表示できないため、大きい「ン」としています。

(本文の引用は、新潮文庫版『新編 風の又三郎』によりました。)

\*\*\*\*\*  
《3》子どもの本の珠玉のことば 20  
\*\*\*\*\*

「このいたずらこぞうめっ！ おまえさんたちのいうことを書きとっていたら、ほらごらん、こんなのはどこにでもいるふつうの男の子じゃないか！ わたしを、からかったなあ。」と、チャペックさんがさげびました。

(『こいぬとこねこのおかしな話』 ヨゼフ・チャペック/作 木村有子/訳  
岩波少年文庫 岩波書店 2017年5月 p.131)

これは、こいぬとこねこの10編のユーモラスなお話が入った『こいぬとこねこのおかしな話』の中の「ドマジリツツェの男の子たちの話」の一文です。

ある日、作家のチャペックさんが、こいぬとこねこのところにやってきて、ドマジリツツェ小学校の二年A組男子から「こいぬとこねこのお話や、ぼくたちのような男の子が登場するお話を、すぐにでも書いてください」という手紙をもらったと報告します。

こいぬとこねこは、ドマジリツツェの男の子たちがどんな子たちか見に出かけていきますが、途中で近所の子どもたちと遊んでしまい、そのまま家にもどってきます。そして、チャペックさんにドマジリツツェに行ったとうそをついて、ドマジリツツェの男の子たちを描写します。「丸い頭があります」「なんと、足は地面までのびてるんですよ！」というように。それを聞いたチャペックさんのことばが、引用の部分です。

それに対してこいぬは「ドマジリツツェの男の子たちが、どこにでもいる男の子ならば、きっとドマジリツツェのこいぬとおにごっこをしたり、こねことかくれんぼをしたりしているんじゃないかな。」と言い、こねこは「男の子も女の子も、世界中どこでもみんなおんなじようにあそんでいるんじゃないかしら。」と言います。

短いお話は、こねことこいぬが、大人である作家をだますところがユーモラスであると同時に、結末には、自由に遊ぶことこそが子どもの幸せであるということが謳われており、心がはずみます。先日(2月13日)、当財団では、

訳者の木村有子さんをお迎えして、国際講演会「チェコの子どもの本 いま・むかし」を開催しましたが、木村さんのご講演をうかがって改めてナチスの強制収容所で亡くなったヨゼフ・チャペックの魅力を認識しました。(Y)

\*「チェコの子どもの本 いま・むかし」については、後日、報告集を発行する予定です。

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

神戸ファッション美術館で、3月28日(日)まで開催されている「こわくて、たのしいスイスの絵本展～クライドルフ、フィッシャー、ホフマンの世界～」に行ってきました。展示は「グリム童話の世界」「スイスの世界」の2章に分けられ、エルンスト・クライドルフ(1863-1956)、ハンス・フィッシャー(1909-1958)、フェリックス・ホフマン(1911-1975)の、手描き絵本、初版リトグラフ、原画など約150点が紹介されています。スイスを代表する3人の作品を一会場で見ることは、所蔵元の長野県「小さな絵本美術館」以外では初めてだそうです。

まずは「グリム童話の世界」です。フィッシャーの「ブレーメンのおんがくたい」は一筆書きのような曲線がとても美しく、描かれている動物たちが動いているように感じられました。「ヘンゼルとグレーテル」や「しあわせハンス」など、一枚の絵の中に物語の初めから終わりまでが描かれている作品はじっくり見て楽しめます。ホフマンの「おおかみと七ひきのこやぎ」は、鉛筆と水彩で描かれた下書きの絵とリトグラフが見比べられます。クライドルフの「ふゆのはなし」は、小人たちが主人公で、雪がおばけのように積もった森や、氷の洞窟の中での白雪姫と宴の様子など、豊かな物語世界が目の前に広がります。

2章「スイスの世界」では、クライドルフの花や虫の妖精の世界がたっぷり紹介されています。登場人物の動きや表情がおもしろく、細かく描かれた花びらや葉っぱの衣装や、草花の背景がきれいです。ホフマンの「スイスの伝説」の絵はちょっと怖い感じで、「小僧がどうやってヨーデルを習ったか」や「悪魔の橋」などの絵を見ていると、どんな話か知りたくなりました。最後はフィッシャーの「こねこのぴっち」と「たんじょうび」のコーナーです。リトグラフに彩色された作品をたくさん見ることができ、「こねこのぴっち」は試作本もあって、出版された本との違いを興味深く見ました。

時代の違う3人の作家ですが、スイスの豊かな自然や、豊かな表情をもった動物を描いている点は共通しており、いつかスイスに行ってみたいと思いつつながら会場をあとにしました。(K)

\* 神戸ファッション美術館 <https://www.fashionmuseum.or.jp/>

■ ----- ■  
【3】全国のイベント紹介

● 絵本学会絵本フォーラム2020「和田誠A面B面」

講師：土井章史(トムズボックス)、吉田宏子(ハチミツボックス)

日時：2月27日(土)19:00~20:30 ※オンライン開催(Zoom)

定 員：100 人程度 参加費：無料 申し込み：不要  
主 催：絵本学会企画委員会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

#### 【4】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『ネムノキをきらないで』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.126 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は3月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

通勤途中の公園に梅の木があります。白梅にメジロがやってきて春の風情が感じられます。これから三寒四温を繰り返しながら春になっていくのでしょうか。新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。“春”は必ずやってくるかと信じて毎日を過ごしています。(TA)

-----  
-----

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

-----  
-----